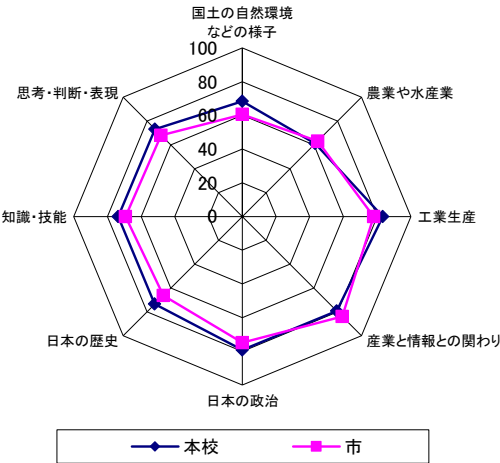


宇都宮市立東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.3	60.5	65.8
	農業や水産業	61.1	63.3	66.0
	工業生産	83.3	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	79.2	83.8	76.6
	日本の政治	79.2	74.9	74.1
	日本の歴史	73.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	73.6	69.3	71.4
	思考・判断・表現	73.2	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は68.3%であり、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ○ほぼ全ての項目で、市の平均正答率を上回っている。 ●「水俣病」や「四日市ぜんそく」の記述から「公害」という言葉を問われる問題であったが、市と同程度であったが、本校も25.0%とかなり正答率は低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図を用いて地形や位置を確認したり、資料を使って読み取ったりする活動を取り入れてきた成果が見られた。今後も、地図や資料活用を積極的に行っていく。 ・公害問題については、時事ニュースや日常生活との関連を踏まえて確認していく。
農業や水産業	平均正答率は61.1%であり、市の平均を2.2ポイント下回っている。 ●「輸入などの外国との関わりにおける課題について考えている」について、正答率は58.3%であり、市の平均正答を8.9ポイント下回っている。	・食料を輸入に頼ることで起こる問題点について再確認するとともに、食料自給率を高めるための取組についても取り上げ、考えを深めていく。
工業生産	平均正答率は83.3%であり、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○「日本の主な輸出品・輸入品について理解している」について、正答率は75%であり、市の平均を18.5ポイント上回っている。 ●「自動車の製造工程について理解している」について、正答率は87.5%であり、市の平均を2.7ポイント下回っている。	・自動車の製造工程における基本的な作業内容について再確認するとともに、身の周りの工業製品についても取り上げて関心を高めていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は79.2%であり、市の平均を4.6ポイント下回っている。 ●「スーパーマーケットにおいて、商品をコンピュータ管理する利点について正答を選ぶ問題」では、8.1ポイント下回った。	・情報化の進展に伴う産業の発展や課題について再確認する。 ・情報との関わり方について、身近な生活との関連について随時取り上げて話し合う。
日本の政治	平均正答率は79.2%であり、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ○日本国憲法の内容に関する問題は、正答率80%から90%とよく理解している。 ●議会政治について資料をもとに考える問題では、市の平均を17.8ポイント上回っているが、正答率は70.8%とやや低い結果である。	・日本国憲法については、今後も自分たちの生活との関連を図りながら、理解を深めていく。 ・議会政治の仕組みについては、衆議院と参議院の役割を明確にするとともに、ポイントを押さえて自分の言葉で説明することができるよう他教科との関連も図りながら指導していく。
日本の歴史	平均正答率は73.4%であり、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ○特に元寇のあった場所を地図から選ぶ問題では、正答率で市の平均を23.2ポイント上回っていた。 ○豊臣秀吉の業績を問う問題では、市の平均を15.7ポイント上回っていた。	・地図や年表などの資料の読み取りについても、よく内容を捉えているので、今後も資料集やICTを活用しながら、児童が自ら課題に取り組む授業づくりに努める。